

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	若者語の使用率に関わる要因
Author(s)	フレヤ マン,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 32期 : 31 - 46
Issue Date	2017-11-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00044667
Right	
Relation	



若者語の使用率に関わる要因

フレヤ・マン

はじめに

「若者語」は常に変化し続けその世代を反映しているという点で、社会言語学分野における研究対象として、大変興味深い分野ではないだろうか。若者語には、一時期急激に人気が高まるが、すぐ死語になってしまう「一時的流行語¹」がある反面、次の世代にも用いられる、または歳を取っても使用され続ける定着語もよくある。しかし、どのような要素がいわゆる一時的流行語と定着語を区別するのだろうか。若者語の使用率の増減と定着性を決定づける要因は何か。本研究では、過去23年間の対照的なデータ、及び現在流行している若者語を分析することによって、若者語の定着化と非定着化の説明原理があるかどうか、あるならそれはどのようなものか考察する。若者語の定義に関しては、原稿によって相異があるが、本稿で若者語の研究の第一人者で、本研究の触発である米川明彦の定義を使う。

「若者語とは中学生から30歳前後の男女が、仲間内で規範からの自由と遊びを特徴に持つ特有の語や言い回しである。個々の語について個人の使用、言語意識にかなり差がある。また時代によっても違う。」

米川が提案した年齢層のうちに、今回は大学1年生～4年生を中心にデータを収集した。

本稿の目的は下記の通りである；

1. 50語の若者語の1994年～2017年に使用変化を分析し、使用の増減、定着化を決める原因を探る
2. 2017年6月～8月に行われた調査で集めた若者語に対して傾向を分析し、分析で明らかになった傾向と使用率に影響する原因を関連付ける

二つ若者語のデータセットの分析を通して、この課題に取り組む。

データ収集

米川明彦とその研究共同者である重田和寿は、1992年10月と、ちょうど2年後1994年10月に若者語の使用について調査を行った。同調査では、90年代に流行し

¹ 井上史雄(1994)『方言学の新地平』明治書院

ていた若者語の辞書『*Beyond Politeness-A Dictionary of Japanese Slang and Colloquialisms*』から50語を抽出し、大阪在住の大学1年生～4年生、計300人にそれぞれの言葉に対して自分の個人的な使用を5段階評価させた。評価基準は以下のとおりである。

- A: よく使う
- B: ときどき使う
- C: 知っている、または聞いたことがあるが使わない
- D: 意味がわからない、または聞いたことがないので使わない
- E: 以前に使っていたが今は使わない

しかし、米川・重田の調査は2年間という比較の見次機関における調査であった。そこで、本研究では1994年から23年後の現在、同様の調査を行うことによって、米川・重田の短期間での調査に、23年という長期の調査を加えて、若者語使用の変化の傾向がより明らかに出来るのではないかと考えた。本調査では、90年代に流行していた50語の使用がどのように変化したかを調べるため、2017年6月から8月にかけて、広島大学の学生100人を対象に、1994年の調査と同じ50語を同様の5段階評価を用いて評価させた。さらに、現代の若者語使用の現状を探るために、フォローアップのための質問を2問加えた。第1問は、それぞれの語に「もしこの言葉をあまり使わないのなら、同じ意味を表すためにどのような表現を使いますか」という質問であり、50語の中に使用しなくなった表現があった場合、現在使っている代替表現を書かせた。第2の質問では調査対象者がよく使ったり、聞いたりする若者語を書くように求めた。この二つの質問から、約233語の若者語を収集することができたため、50語の23年間の使用率の変化のデータと、現在流行している若者語のデータをもとに、若者語の使用率の増減と定着化傾向を探り、その原因を分析した。

分析1：米川・重田の50語の使用率の変化

この分析では、50語に関する調査の結果を集計し、量的に分析した。関連性のあるところに今回の調査で集めた言葉も論じる。1994年と2017年の調査の生のデータ表や対照的なグラフ等は参考資料を参照されたい。若者語の使用率は複数の要因が複雑に絡み合っており、一つの要因のみに影響されているわけではないが、分析1では、便宜上要因の分類においては、各表現について主たる要因と見做されるものを基準として項目別に分類した。では、以下に、50語の使用率の変化に影響する要因について結果を述べる。

1. 若者のライフスタイルとの関連性・必要性

まず、若者語の使用に影響する強い要因は若者のライフスタイルとの関連性と必要性だ

と言える。若者のライフスタイルや社会的変化に伴い、言語使用も変化していく。特定の表現と若者のライフスタイルとの関連性が強くなると、その表現は若者語となり、使用頻度が高まり定着化しやすいという傾向がみられる。例えば、1994年の調査にあるカーナビゲーションの略語である「ナビ」の使用率は33.9%であったが、2017年には100%と増加した（表1参照）。これは、これは、90年代からテクノロジーが幅広く使用されるようになり、テクノロジーが若者の日常生活を強く反映する特徴になった結果、テクノロジーに関わる言葉の必要性が高くなったためであると考えられる。卒業アルバムの略語である「卒アル」の使用率も、1994年に18.4%から2017年に96.4%に上昇した。（1994年以降、卒業アルバムをもらう習慣は若者の生活に定着してきたとともに「卒アル」の使用率が増えたと考えられる。「ナビ」と「卒アル」の他、「合コン」（71.3%～90.3%）、「カンペ」（38.6%～75.9%）、「すっぴん」（85%～100%）、「ストパ」（63.6%～90.2%）の使用率の増加も同様の理由によるものだと推察できる。「自己中」「アバウト」「爆睡」「お茶する」「どたキャン」「ぼったくり」等の感覚・態度・動作を表す表現も社会的な変化に伴い、使用が向上した可能性が高い。本データから、抽象的な表現を社会的な変化と関連付けるのは容易ではないが、使用頻度の増加から、それぞれの言葉が社会的変化と継続的な関連性を有すると言えるのではないだろうか。

若者のライフスタイルとの関連性や社会的な変化によって、本調査で収集した現代若者語の中には、テクノロジー、特にソーシャルメディアに関連する表現が多く見られた。例えば、「インスタ」インスタグラムの略語、「インスタ映えする」インスタグラムでの見栄えが良いこと、「スノる」スノーというアップで撮影すること、「アップ/うpする」(/uppusuru/)写真等をインターネットにアップロードすること、「写メる」写真が添付されているメールを送ること、「既読無視」LINE相手のメッセージを受信し内容を読んだから返信をしないことなどがある。若者のライフスタイルにテクノロジーがよく使われていることを反映する「インターネット用語」もよく使われていた（例 X 参照）。社会の動向は若者のライフスタイルに多大な影響を与えるため、若者が用いる表現にも影響を与える。現在、テクノロジーに関する若者語は、若者のライフスタイルと継続的に関連しているため、この傾向はしばらく継続すると予測できる。

これに対して、社会の変化によって若者語の必要性や若者のライフスタイルとの関連性が希薄になった場合にその語の使用率が減少する傾向がみられた。このような場合、調査協力者から「そのような言葉を使う状態になったことがないので使いません」や「使用する機械がないのでわかりません」などのコメントがあった。若者が日常生活で使う機会、状況などがなくなると、若者語を使用する必要性もなくなるようである。例えば、いらずら電話の略語である「いた電」は、固定電話の代わりにインスタントメッセージなどが使われるようになり、若者の間でのいらずら電話が減ってきたため、使用頻度が下がったと思われる。

また、若者のライフスタイルとの関連性や継続的な必要性があまりない若者語は、「一時的な流行語」になってしまう可能性が高いと思われる。若者のライフスタイルとの関連性は若者語の使用率に影響する要因として非常に強いようであるが、前述したように若者語の使用率は一つの要因のみに影響されているとは必ずしも言えない。米川・重田の50語の傾向を見ると、「イタめし」「オタッキー」などの若者のライフスタイルの関連性は依然と高いと思われるものも使用率が減少していた（使用頻度：イタめし 25.5%～4.6%、オタッキー 49.3%～20.7%）。これは、関連性や必要性があっても、他の要因で使用率が減少する可能性を示唆している。次節では、関連性以外に若者語の使用率に影響する要因について検討する。

2. 言語的な使いやすさ

若者語の「言語的な使いやすさ」も語の使用率に影響を及ぼすようである。日本語では、長い表現を短くする現象がよくみられる。短くすることで言葉はより言いやすく使いやすくなるから、使用率の増加や定着性にも影響すると考えられる。例えば、土壇場でキャンセルするの略語である「どたキャン」は1994年に24.6%の使用頻度から2017年に98.8%に上がった。若者のライフスタイルと関連があるだけでなく、「どたキャン」の使いやすさが使用頻度の増加と関連していると考えられる。その他、「自己中」自己中心の俗語（76.1%～96.4%）、「ぱしり」使い走りの俗語（55.6%～97.6%）、「借りパク」借りる+パク、借りたまま返さない（10%～75.9%）、「クリパ」クリスマスパーティーの略語（17.3%～57.8%）なども同様に理由で使用頻度が上がったと考えられる。先述した「ナビ」「カンペ」「卒アル」「ストパ」「合コン」「爆睡」「お茶する」も縮約語の形成過程で作られた。このような言葉は、2017年のデータセットにもたくさん見られた。例えば、「じわる」じわじわくるの略語で、感情的な反応がすぐ出て来なく、じわじわと来るということ、「とりま」とりあえず+まあ～の組み合わせであって、会話の中で連続詞として使われる表現、「なるはや」なるべく早くの略語、「宅飲み」自宅で飲み会をすること、「めんどい、めんどい」面倒臭いの略語のバリエーション、「陰キャ」陰気+キャラクター、陰気な性格の人、「陽キャ」陽気+キャラクター、陽気な性格の人などがあげられる。さらに、1994年の調査にあった「クリパ」以外にも、英語の「パーティー」からの「パ」を接尾辞として使い、現在タコパ、鍋パ おこパ、酒パなどのさまざまな組み合わせが流行しているようである。

縮約語の形成過程は、言葉の「使いやすさ」に影響し、若者語の使用率や定着性を上げるが、逆に若者語の定着性に負の影響を及ぼす場合も観察された。これは、言葉を切り取ったり他の語と組み合わせたりすることによって、時間の経過とともに意味が不明瞭になるからではないかと思われる。例えば「イタリアン」と「飯」の組み合わせである「イタめし」の場合、「めし」の意味は現在にも伝わりやすいが、「イタ」の部分は定着性が

より低いようである。1994年に「イタめし」の意味が分からないと答えた調査協力者は5.5%だったが、2017年には51.5%に増加し、「イタめし」の意味が不明瞭になったことが分かる。また、調査対象者は、「イタめし」より省略のない元の表現である「イタリアン料理」を普段に使うと答えた。非縮約形に戻るパターンは「イタめし」以外にもよくみられた（表1参照）。

表1 縮約形から非縮約形に使用傾向が変わった表現

縮約形の若者語	意味を分からないと答えたパーセンテージ (1994～2017年)	現在使用されている表現 (非縮約形)
イタめし	5.5%～51.5%	イタリアン料理
お水	1.9%～41.1%	水商売
紺ブレ	1.8%～81.7%	紺のブレザー
タカビー	2.2%～71.1%	高飛車
イタ電	7.7%～10.11%	いたずら電話
バイリンギャル	13.6%～77.11%	バイリンガルの女の人
般教	6.2%～81.71%	一般教養科目

このように、縮約語の形成過程は言語的な使いやすさを増幅させる一方で、意味を不明瞭することにもなりえるのである。

3. 新たな代替表現の表出

一つの若者語と同様の意味を表す他の語が存在する、あるいは出現することで、その若後もの語が保持されない可能性がある。つまり、元の若者語からその代わりとなる異なる表現へ人気に移ることにより、元の若者語の使用率が減少するのである。例えば、「過去ヤン」は「元ヤン」が使われるようになった結果、1994年から2017年の間に使用率は0%まで減少した。また、90年代に流行していた若者語である「コンパ」も、2017年に使用頻度が90.3%まで上がった「合コン」に移行している。表2は50語の中で、大体表現の出現により使用されなくなった若者語を示している。この表では、代替表現のうち、若者語といえるものを太文字、一般的な表現をイタリック、新たな若者語は強調フォントを使用しないで記述した。前述した「イタめし」、「紺ブレ」、「タカビー」、「イタ電」、「バイリンギャル」については表1に代替表現を記述したため、表2には含まれていない。

表2 代替表現の出現によって使用されなくなった若者語

使用率が減少した若者語	現在使用されている代替表現
ダサダサ	ダサイ 、 <i>ダッサ</i> 、
一銭ビー	金欠
イケイケ	パリび 、 <i>陰キャ</i> 、 <i>チャライ</i>
ゲロゲロ	つまらん 、 <i>おもんない</i>

きしよい	気持ち悪い、キモイ
Uかます	Uターン
こんばば	意地悪、性悪
オタッキー	オタク、ヲタク、ヲタ、オタ
ちょんばれ	ばれる、バレバレ、もろばれ
お水	お水商売、風俗、キャバ嬢
バッタもん	偽物、パチモン
はみ子	はぶる、ぼっち
般教	一般教養科目、教養
プー太郎	フリーター、ニート

表 2 の若者語が他の若者語に移行した原因については、縮約語の形成過程によって意味が不明瞭になり定着しなかった可能性が考えられるが、ほかの原因も考えられる。例えば、「ちょんばれ」、「イケイケ」、「ゲロゲロ」、「こんばば」、「オタッキー」は、若者以外の年齢層にも使用されるようになったため、隠語的なアピールがなくなったことが原因で、それぞれの使用率が下がった可能性がある。あるいは、新たな若者語に人気が集出し、それまで使われていた若者語が古臭く感じられるようになった可能性もある。1語の使用率が減少すると同じ意味を表す他の語の人気が高まる具体的な理由を突き止めるのは困難であり、この原因を明らかにするためには、今後さらなる研究が必要である。

4. 人気の復活と普及

古いファッションがトレンドとして復活するように、一時的に注目を浴びなくなった若者語もまた流行っていくことがある。1992年から1994年の間に使用率が10.9%下がった「お茶する」は、1994年から2017年に28.5%と上昇している。1992年から1994年にかけての減少傾向の原因は不明であるが、2017年にかけて何らかの理由で人気が復活したと言える。表3の「ぶっちする」と「バッチグー」も、2年間に使用率が大幅に減少したが、2017年まで23年間にそれぞれ7.9%、1.4%と使用率が上がった。「おぶっちする」と「バッチグー」に使用率の上昇率は「お茶する」に比べ低いが、その理由は様々考えられる。まず、「おぶっちする」と「バッチグー」は最近になって人気が復活し始めたか、23年間に一度人気上昇し、その後また減少した可能性がある。あるいは、1994年から2017年の間の使用率の増加は「復活」を示しているわけではなく、使用が地域的に広がったとも考えられる。鎌水(2012)では、若者語には全国規模の地域差が存在し、語が発祥地から他の地域に普及する傾向がみられた²。米川・重田が1992年から1994年の間に収集したデータは大阪の大学生から収集したものであるが、本調査のデータは広島大学で収集したものである。したがって、1992年から1994年の間の使用減少と1994年から2017年の間の使用増加は

² 鎌水 兼貴、『全国若者語調査』における言語伝播モデル 2012

「復活」ではなく、地域的な使用の広がり可能性がある。本調査の「バッチグー」の使用傾向はこの過程を支持するものである。「よく使う」と「時々使う」と選んだ調査協力者は21.7%であったが、「意味分からない」と「以前に使っていたが今は使わない」と答えた協力者も20.5%であった。「バッチグーはおやじっぽう」と「これは死語だと思う」というコメントもあった。使用がすべて上昇傾向に偏っていた「お茶する」等の語に比べ、「バッチグー」への回答にはばらつきが見られた。広島大学には様々な地域からの学生が在籍していることを鑑みると、「バッチグー」は特定の地域手は使用が広がり、そうでない地域では広がらなかった可能性がある。

実際、人気が本当に復活したといえる「お茶する」しか観察されなかった。米川・重田(1992)が公表したデータは、表1と表2に含まれているものだけであり、1992年に収集した全てのデータは公表されていない。そのため、50語のセットに他の例が存在するかどうかを確認することは不可能である。そのため、本調査で収集したデータの中には人気が復活したと判断できる若者言葉の例は、見られなかった。使用増加の要因として、人気の復活はあまり起こらないものであるのかどうか疑問に残る。

分析2：現在の若者語の傾向

本調査で新たに収集した若者語について観察された傾向として、上記の説明では把握できないものについてさらに検討を進める。ここ手対象とする表現には、過去のデータがないため、使用率に影響を与える原因については推察の域を出ないが、可能な限り原因について考察した。

1. 形態的な遊び

米川は若者語を「規範からの自由と遊びを特徴に持つ言葉」と述べている。今回の調査で収集した約233語から、形態的なバリエーションを表す語が多々見られた。こういう形態的なバリエーションは、自然な話し方を誘起し、視覚的なアピールを表すため、もともと漫画に利用していたようである。現在若者の書き言葉でも話し言葉には、形態的なバリエーションがみられる。辞書形の基本的な言葉に、若者は形態的なバリエーションを自己表現の道具として、感情を強調し、情緒的態度を示し、人物を表し、視覚的にも聴覚的にも面白い以下のような表現を作っている。

例：

- (1) 仮名・語長のバリエーション (括弧した数字がそれぞれの語を書いた人数)

オタク (38)、オタ (3) ヲタ (3)、ヲタク (2)、
きもい (17)、気もし悪い (16)、キモい (5)、きも (2)、キモ (1)、
パチもん (7)、パチモン (3)、偽物 (3) ぱちもん (2) ニセモン (2)

チャライ (10)、ちゃらい (3)、チャラチャラ (3)
 ダサイ (34)、ださい (5)、ダセッ (2)、ダセェ (1)、ダサ (1)

(2) 形容詞：促音や「い」の追加削除

「ダサイ」ダッサ・だっさ、ダサッ・ださっ、ダッサイ・だっさい

これらの表現は、基本の「ダサイ」に促音を挿入したものであるが、そうすることで「ダサイ」感じを強調する効果が出る(ダッサイ・だっさい)。この場合、「い」を省略すると、話者の軽蔑した態度をさらに強調することができる(ダッサ・だっさ、ダサッ・ださっ)。「ダサイ」だけではなく、形容詞に対して感情の強さを伝えるためにこのパターンが利用されているようである。

形態的なバリエーションはどのように書き言葉と話し言葉に表れるかと対応的な機能は表4に示す。

表4 書き言葉と話し言葉に現れる形態的なバリエーション

書き言葉	話し言葉	機能
ひらがな・かたかな	x	視覚的な強調・アピール
促音の加算 (視覚的)	促音の加算 (聴覚的)	強調、感情の強さ
文字の削除	音声の削除	感情、機嫌、人物等を表す
文字の追加	音声の追加	感情、機嫌、人物等を表す

表4から実用的な機能と形態的な言葉遊びは面白みの特徴も持っていることがわかる。実用的な機能を有する形態的なバリエーションの定着性は高いと考えられるが、いわゆる視覚的・聴覚的なアピールや響きの良さは若者語の長期的な使用率に影響を取る可能性も考えられる。若者語の視覚的・聴覚的なアピールという基準が時間が経つとともに変わる可能性が高く、若者語の使用率に影響するのではないかと思われる。本調査のデータでは、具体的にどのように影響するについて結論できないが、50語の視覚的・聴覚的なアピールについての調査を行い、使用率とどの程度相関するかを調べることで明らかにできるのではないだろうか。

2. 隠語的な若者語

「隠語」というのはある特定の仲間内や専門家だけで通じる言い回しである。この定義に基づき、他の年齢層ではあまり使用されず、理解もされない若者語は、一種の隠語とも言える。なお、若者語の中に、さらに一部の者に使用される隠語的な特徴を持つものも存在するようである。例えば、前述したテクノロジーに関する「写メる」「インスタ」などの他に、オンライン世界に使用されている特有な「インターネット用語」がさまざま存在する。例えば、「かまちょ」「かまってちょうだい」の略語で、「遊んでほしい」という意味である。「草はえる」と「ワロタ」「笑う」を意味する語「ンゴ」や、惜しい状態

になった時に、嘲笑したい物事の語尾に付ける接尾辞「詰んだ」は、主にインターネットのコミュニティやソーシャルメディアだけで使用されており、ネット環境下における隠語といえるのではないだろうか。

実際「隠性」は長期的に使用率に影響する要因として考えうるのではないだろうか。本調査ではあ、若者以外の年齢層に使用されるようになると、隠語的なアピールを失い、使用率が減少していた（ちょんばれ、こんばば、ゲロゲロ、オタッキー等）。ただ、このような若者語は限定的な状況でしか使用されず、使用場面がさらに限定されていくと定着性も下がっていくようである。そして、縮約語の形成過程で作られた若者語と同様、隠語的な若者語は時間の経過とともに意味が不明瞭になりやすいようである。全体的に、いわゆる「隠性」や隠語的なアピールは長期的に若者語の使用率や定着性を下げる原因となるが、使用頻度の上昇には関与していないと思われる。「かまちょ」等の語は長期的に使用され続けると、隠語的なアピール以外の要因にも影響されると考えられる。

まとめ

本研究では、若者語の増減、定着化に影響する要因について、以下の要因が示された。

1. 若者のライフスタイルとの関連性や必要性
2. 継続的な使いやすさ
3. 新たな代替表現の表出
4. 社会的なトレンドの流れ

この四要因は23年間にわたるデータ分析をもとにしており、若者語の潜在的な定着性と深く繋がっていると思われる。一方、分析2で論じた「隠語的なアピール」や「形態的な遊びの魅力」は短期的に若者語の人気に影響する傾向が見られたが、若者語の長期的な定着化に対しては、影響度が低いのではないかとと思われる。なぜなら、「隠語的なアピール」などは「ライフスタイルとの関連性」ほど、若者語の継続的な関連性や必要性にあまり影響しないと考えられるからである。よって、「隠語的なアピール」や「形態的な遊びの魅力」は語が一時的に流行する要因と考えたほうが良いのではないだろうか。

若者語の使用率は多くの要因が複雑に絡み合うことで、変化する。時間が経ち社会的なトレンドが変化するとともに若者語の使用率に影響を与える要因も変わっていく。本調査で検討した要因以外にも、若者語の使用率に影響する要因が存在するはずである。本調査で扱ったデータは、米川のデータと今回の調査データを基にした限定的なデータであるため、若者語の使用率に影響する要因を網羅的に把握することは困難であり、より大規模なデータを用いた分析が必要だと考える。

参考資料

表 1 : 生なデータ表

グラフ 1994年度の使用率(降順)を基準とした2017年度の使用率

表 2 : 1992年~1994年、使用頻度が一番増加した10語
(2017年付き)

表 3 : 1992年~1994年、使用頻度が一番減少した10語
(2017年付き)

表 4 : 1994年~2017年、使用頻度が一番増加した10語

表 5 : 1994年~2017年、使用頻度が一番減少した10語

50語の定義

今回の調査で集めた2017年の若者語リスト

参考文献

井上史雄著(1994年)『方言学の新地平』明治書院

株式会社自由国民社著(1978年)『現代用語の基礎知識』

小学館著(2011年)『日本大百科全書』

鏈水 兼貴著(2012年)『全国若者語調査における言語伝播モデル』 国立国語研究所共同研究報告 13-02

米川明彦著(1998年)『若者語を科学する』明治書院

米川明彦著(1997年)『若者ことば辞書』東京堂出版

<http://www.weblio.jp> (最終閲覧日:2017年8月11日)

アンケートは surveymonkey.net で配った

表 2 : 1992年～1994年、使用頻度が一番増加した10語

米川の調査によると、1992年～1994年の間に、以下の10語の使用頻度が一番増加した。長期的にその10語の使用率が上がり続くか減るかを示すため、1992年～2017年の間の変化を表に加えた。(使用率が増加したら数字の前に「+」があり、減少したら「-」が付いている)

順位	見出し語	使用頻度の増加 1992-1994	使用頻度の変化 1994-2017	長期的な変化 1992-2017
1	バッチグー	-22.5	+1.4	-21.1
2	ぶっちする	-17.7	+7.9	-9.8
3	オタッキー	-16.4	-19.6	-36
4	バイリンギヤル	-12.1	-2.9	-15
5	ゲロゲロ	-11.7	-5.2	-16.9
6	お茶する	-10.9	+28.5	+17.6
7	アッシー君	-10.7	-9.1	-19.8
8	ちょんばれ	-8.6	-5.9	-14.5
9	一銭ピー	-7.7	-1.1	-8.8
10	こんばば	-5.6	-12.4	-18

表 3 : 1992年～2017年、使用頻度が一番減少した10語

1992年～1994年の間に、以下の10語の使用頻度が一番減少した。その10語の長期的な使用率の変化を示すため、1992年～2017年の間の変化を表に加えた。

順位	見出し語	使用頻度の増加 1992-1994	使用頻度の変化 1994-2017	長期的な変化 1992-2017
1	ばしり	+24.6	+42	+66.6
2	ナビ	+22.5	+66.1	+88.6
3	どたキャン	+20.2	+74.2	+94.4
4	自己中	+19.5	+20.3	+39.8
5	いた電	+15.9	-29.9	-14
6	ぱくる	+15.0	+32.3	+47.3
7	ストパ	+14.4	+26.6	+41
8	バッタもん	+14.0	-17.8	-3.8
9	エッチする	+11.1	-1.6	+9.5
10	爆睡いする	+10.6	+28.1	+38.7

表4：1994年～2017年、使用頻度が一番増加した10語

順位	見出し語	使用頻度の増加 1994～2017
1	卒アル	+78
2	どたキャン	+74.2
3	ナビ	+66
4	借りパク	+65.9
5	ぱしり	+42
6	クリパ	+40.5
7	カンペ	+37.3
8	アバウト	+36.1
9	ぼったくり	+33.9
10	超	+32.6

表5：1994年～2017年、使用頻度が一番減少した10語

順位	見出し語	使用頻度の減少 1994～2017
1	般教	-81.6
2	紺ブレ	-66.2
3	ダサダサ	-47.8
4	タカビー	-45
5	お水	-42.2
6	過去ヤン	-36
7	いた電	-29.9
8	イタめし	-21.2
9	プー太郎	-20.3
10	オタッキー	-19.6

年 使用段階	1994					2017				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
朝一	42.7	41.5	12.5	1.1	2.2	42.6	43.6	7.5	6.4	0
アッシー君	1.8	27.6	53.7	0.7	16.2	3.4	16.9	49.4	30.3	0
アバウト	13.2	30.5	49	3.3	4	40.5	39.3	14.6	3.4	2.3
イケイケ	13.6	44.5	22.4	0.7	18.8	6.7	39.3	40.5	0	13.5
いた電	27.9	36.8	23.9	7.7	3.7	5.6	29.2	47.2	10.2	7.9
イタめし	4.4	21.4	60.2	5.5	8.5	0	4.6	40.2	51.7	3.5
一銭ピー	0	1.1	24.6	72.8	1.5	0	0	3.5	93.1	3.5
エッチする	19.5	32.7	45.6	0.4	1.8	14.1	36.5	45.9	1.2	2.4
お気に	9.6	24.7	39.5	14.4	10.6	7.1	22.4	49.4	10.6	10.6
オタッキー	11.5	37.8	32.9	1.9	15.9	7.1	22.6	47.6	16.7	6
お茶する	22.4	32.4	38.6	0.7	5.9	35.7	47.6	16.7	0	0
鬼のように	21.4	31.7	32.1	7	7.7	27.4	35.7	29.8	7.1	0
お水	24.7	40.2	26.9	1.9	6.3	4.8	17.9	35.7	41.7	0
終わってる	48.2	36.4	8.8	1.5	5.1	60.7	33.3	2.4	1.2	2.4
過去ヤン	0.7	2.9	43.4	50.4	2.6	0	0	23.8	75	1.2
借りパク	2.6	7.4	27.5	58.1	4.4	32.5	43.4	16.9	2.4	4.8
カンペ	9.2	29.4	38.2	16.5	6.7	44.6	31.3	19.3	4.8	0
きしよい	38.2	36	14	3.3	8.5	34.9	32.5	27.7	1.2	3.6
クリパ	9.2	8.1	29.4	50.7	2.6	30.1	27.7	31.3	8.4	2.4
けばい	52.6	40.7	3	0.4	3.3	47	37.4	10.8	2.4	2.4
下痢ピー	16.3	23.3	50.7	3	6.7	19.3	39	32.5	6	3.6
ゲロゲロ	5.6	14	45.4	3.3	31.7	3.6	10.8	34.9	48.2	2.4
合コン	33.4	37.9	25.4	0.4	2.9	54.2	36.1	9.6	0	0
こんばば	3.3	10.3	29.5	42.5	14.4	0	1.2	1.2	96.4	1.2
紺ブレ	32.8	35.8	13.7	1.8	15.9	0	2.4	14.6	81.7	1.2
自己中	41.9	34.2	18	2.2	3.7	75.9	20.5	2.4	0	1.2
すっぴん	46	39	13.2	0.7	1.1	88	21.1	0	0	0
ストパ	38.2	25.4	18.7	14	3.7	76.8	13.4	3.7	6.1	0
卒アル	10.3	8.1	36.4	44.5	0.7	88	8.4	2.4	0	1.2
タカビー	15.4	36.8	26.5	2.2	19.1	0	7.2	21.7	71.1	0
ダサダサ	27.6	34.6	22.4	1.1	14.3	3.6	10.8	42.2	41	2.4
超	28.7	32.7	25	0.7	12.9	61.5	32.5	3.6	1.2	1.2
ちょんばれ	2.2	3.7	27.9	65.1	1.1	0	0	7.2	89.2	3.6
どたキャン	6.6	18	43.8	30.9	0.7	79.5	19.3	0	0	1.2
ナビ	11.8	22.1	32.7	32.7	0.7	83.1	16.9	0	0	0
バイリンギャル	2.6	9.9	62.9	13.6	11	3.6	6	13.3	77.1	0
爆睡する	34.9	34.6	23.3	2.2	5.1	88	9.6	2.4	0	0
ぱくる	27.7	32.8	29.5	1.5	8.5	66.3	26.5	4.8	1.2	1.2
ぱしり	24.3	31.3	30.1	6.6	7.7	69.9	27.7	2.4	0	0
バッタもん	20.9	37.9	25.4	11.4	4.4	13.3	27.7	27.7	27.7	3.6
バッチグー	5.9	14.4	40.6	0.7	38.4	4.8	16.9	57.8	4.8	15.7
はみ子	14.3	24.6	29.1	9.6	22.4	4.8	19.3	14.5	57.8	3.6
般教	70.6	15.8	7	6.2	0.4	2.4	2.4	13.4	81.7	0
プー太郎	32	41.2	15.8	0.7	10.3	10	32.9	39	14.6	2.4
ぶっちする	24.2	26.5	31.6	11.8	5.9	28.1	30.5	24.4	17.1	0
ぼったくり	29.8	32.7	25.7	11	0.8	67.1	29.3	3.7	0	0
やってくれる	25.4	38.2	27.2	4.8	4.4	32.9	53.7	7.3	6.1	0
やらはた	1.1	2.9	18.4	76.1	1.5	0	4.9	4.9	90.2	0
Uかます	3.7	4	23.5	68	0.8	1.2	0	2.4	96.3	0
類友	4.8	9.9	33.1	49.6	2.6	9.8	0.7	24.4	43.9	1.2

50語の定義

朝一 朝の一時間目から授業がある

アッシー君

電話一本で女性のためにすぐに車でかけつけてきてくれて、送り迎えをしてくれる便利な男性

アバウト 人の性格や行動がいかげんなさま

イケイケ いかにも遊び人風、派手な服装や化粧をしているさま

いた電 いたずら電話の略語

イタめし イタリア料理

一銭ピー お金がなくて緊迫した状態

エッチする セックスする

お気に お気に入りの略語

オタッキー オタクと同じ意味

お茶する 喫茶店に行く、また、休憩してコーヒーや紅茶などを飲む

鬼のように 非常に

お水 水商売をしている女性

終わってる 最悪の状況とそこから生じる結果

過去ヤン 過去ヤンキーの略語

借りパク 人に物を借りて返さずに自分のものにしてしまう

カンペ カンニングペーパーの略語

きしょい 気色悪いの略語

クリパ クリスマスパーティの略語

けばい けばけばしいの略語

下痢ピー おなかを壊していて、下痢気味

ゲロゲロ 不快、気持ち悪い、おもしろくない気分などのいやな感じ

合コン 合同コンパの略語

こんばば 根性が悪くて、意地悪い

紺ブレ 紺のブレザーの略語

自己中 自己中心的

すっぴん 化粧をしていない顔

ストパ ストレートパーマの略語

卒アル 卒業アルバムの略語

タカビー 高飛車の略語

ダサダサ ダサい

超 とても、非常に

ちょんばれ 秘密やウソが完全にばれてしまっている

どたキャン 直前になって約束や申し込むをキャンセルする

ナビ カーナビゲーションの略語

バイリンギヤル 2ヶ国語をしゃべれる女の子

爆睡する 死んだように深く寝入る

ばくる 盗む

ばしり 使い走り

バッタもん ブランド物などの偽物

バッチグー ばっちり、パーフェクト

はみ子 仲間はずれにする

般教 一般教養科目の略語

プー太郎 定職につかず、ぶらぶらしている人

ぶつちする 約束をさっぼかしたり、授業をサボったり

ぼったくり 不当な利得をとって、値段のわりには商品価値がない

やってくれ

抜けめなく上手にやったとか、頼んだことをちゃんとくれなかったり、こちらにマイナスになるようなことをされたりした時の恨みの気持ち

やらはた 性体験なしに20歳になる

Uかます Uターンする

類友 類は友を呼ぶの略